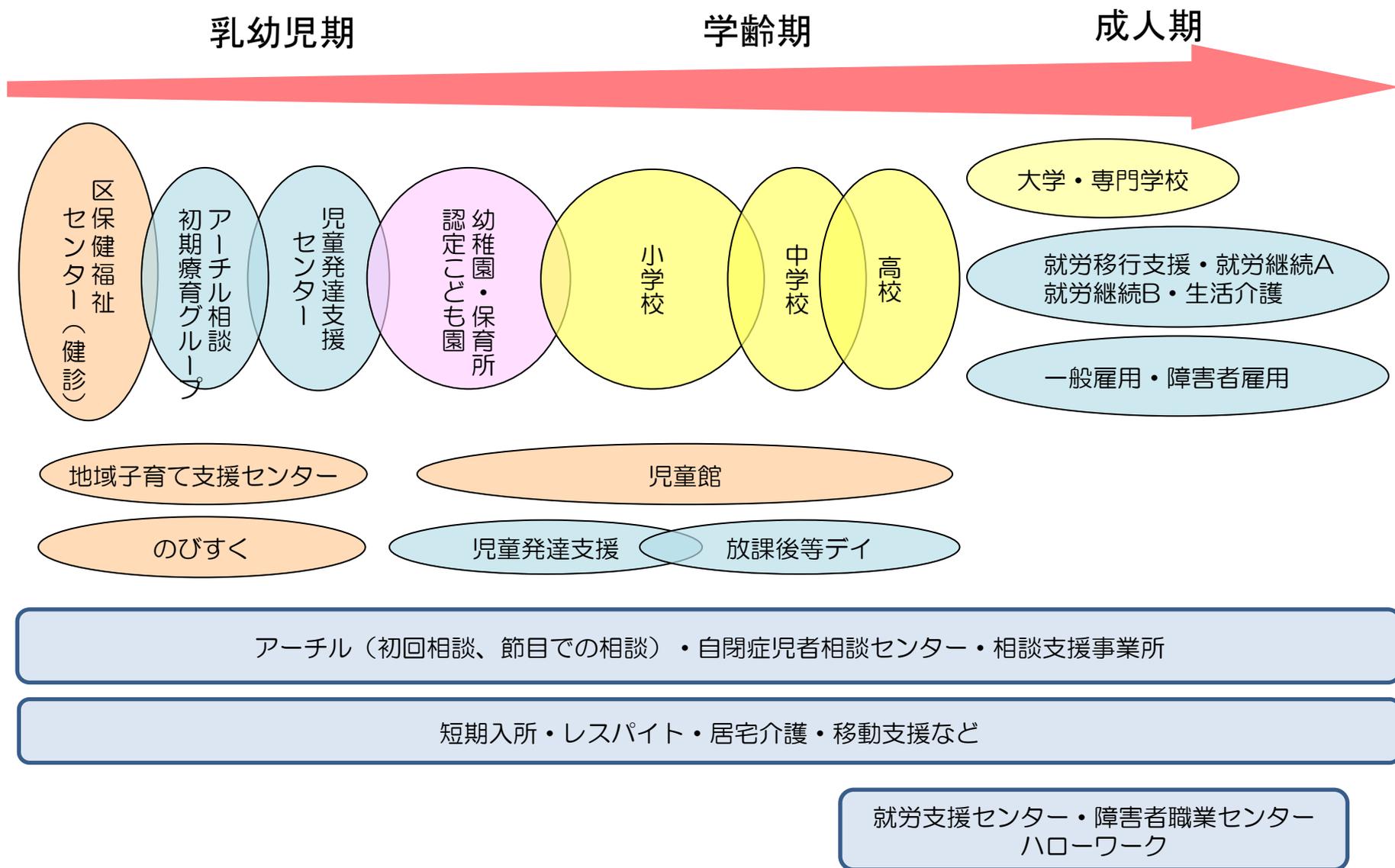


# 仙台市における発達障害児者支援の現状と課題

# 1 本市における発達障害児者支援の体系



## 2 発達相談支援センター(アーチル)の相談支援

### (1) 生涯ケアの視点

#### 【経過】

- ◆平成14年4月に発達相談支援センター(以下、「アーチル」)を開所し、発達障害児者を対象とした「早期出会い」と乳幼児期から成人期までの「生涯ケア」に取り組み、発達障害児者の「地域での生活」を支えてきている。
- ◆増加する相談ニーズに対応するため、平成24年1月市内2か所目となる南部発達相談支援センターを開所し、南北2館体制で相談支援を行っている。

#### (1) 生涯にわたる一貫した相談支援

##### ○「生涯ケアの入り口の相談支援」

・本人のもつ発達特性を整理するとともに、本人・家族とともに「(本人の)生きづらさ」「(家族の)育てにくさ」が生じる背景を整理するとともに、支援の方向性や具体的な対応方法等を確認・共有。

##### ○発達の節目の時期の相談支援

・ライフステージの節目毎のニーズに対応し、進路や必要な支援を本人、家族とともに考え、本人や家族が自ら考え、自ら選択できるように相談を行う。

・必要な支援を途切れなく届けることで、二次障害を予防し、その人らしい生き方を送ることができるようサポートする。

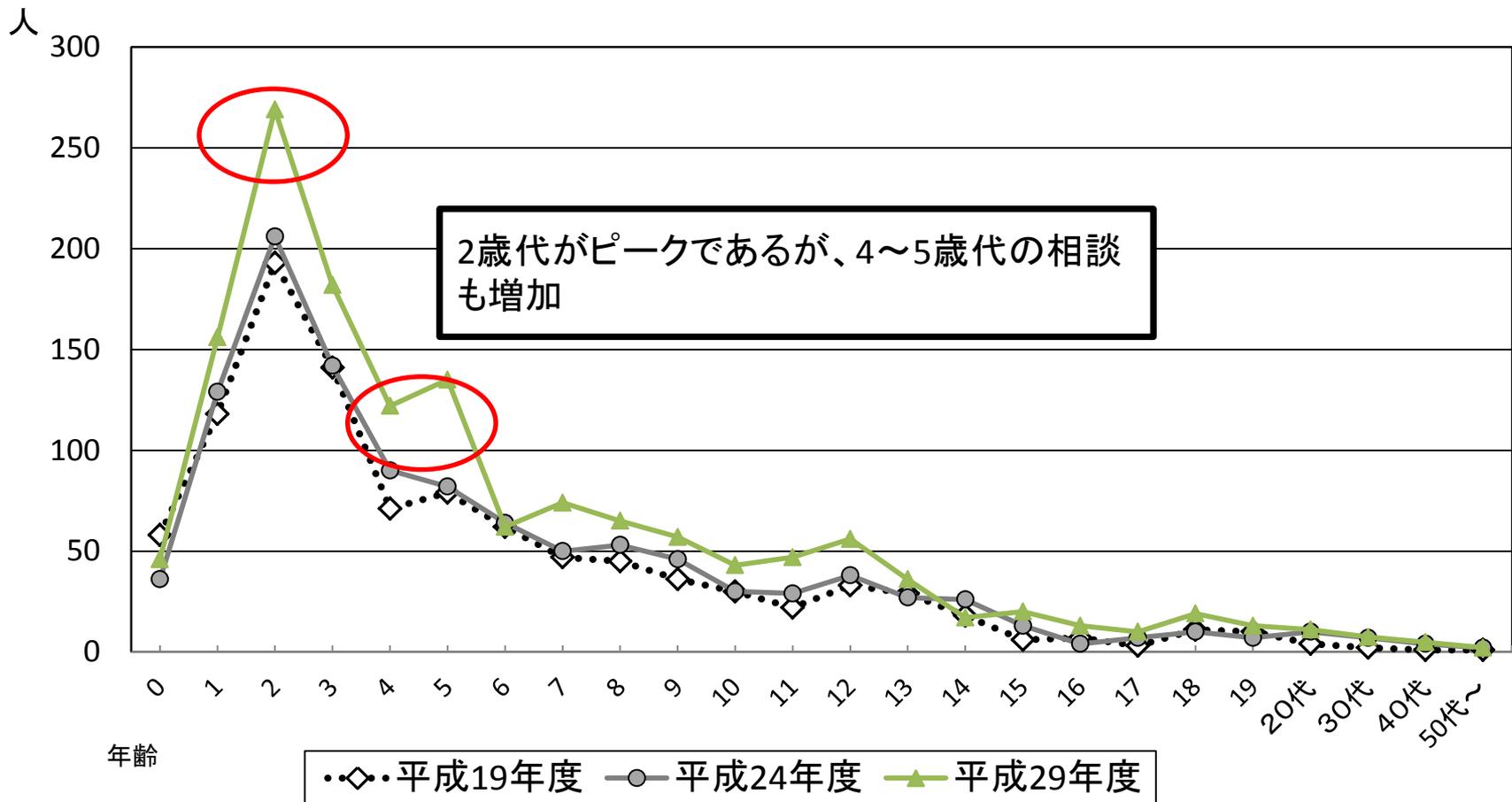
#### (2) システム全体のコーディネート

直接支援と同時に、本人、家族、関係機関と連携・協働しながら、個別の相談支援を通して見えてきた課題を把握し、課題解決にあたる間接支援を行っている。

- ①関係機関のバックアップ、コンサルテーション
- ②合意形成を図るための連絡調整機能
- ③共通課題の解決に向けたシステム作り

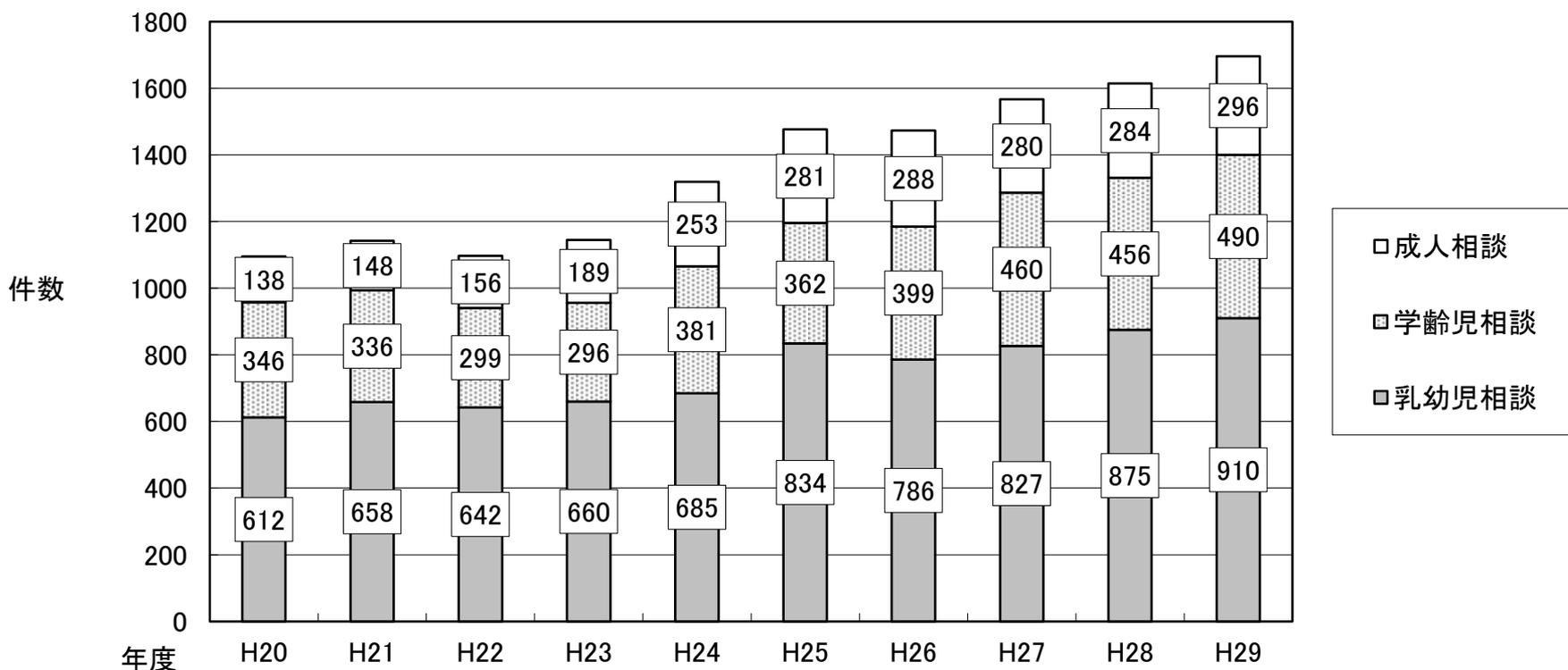
## (2) アーチルの相談傾向

### 初回相談年齢の推移



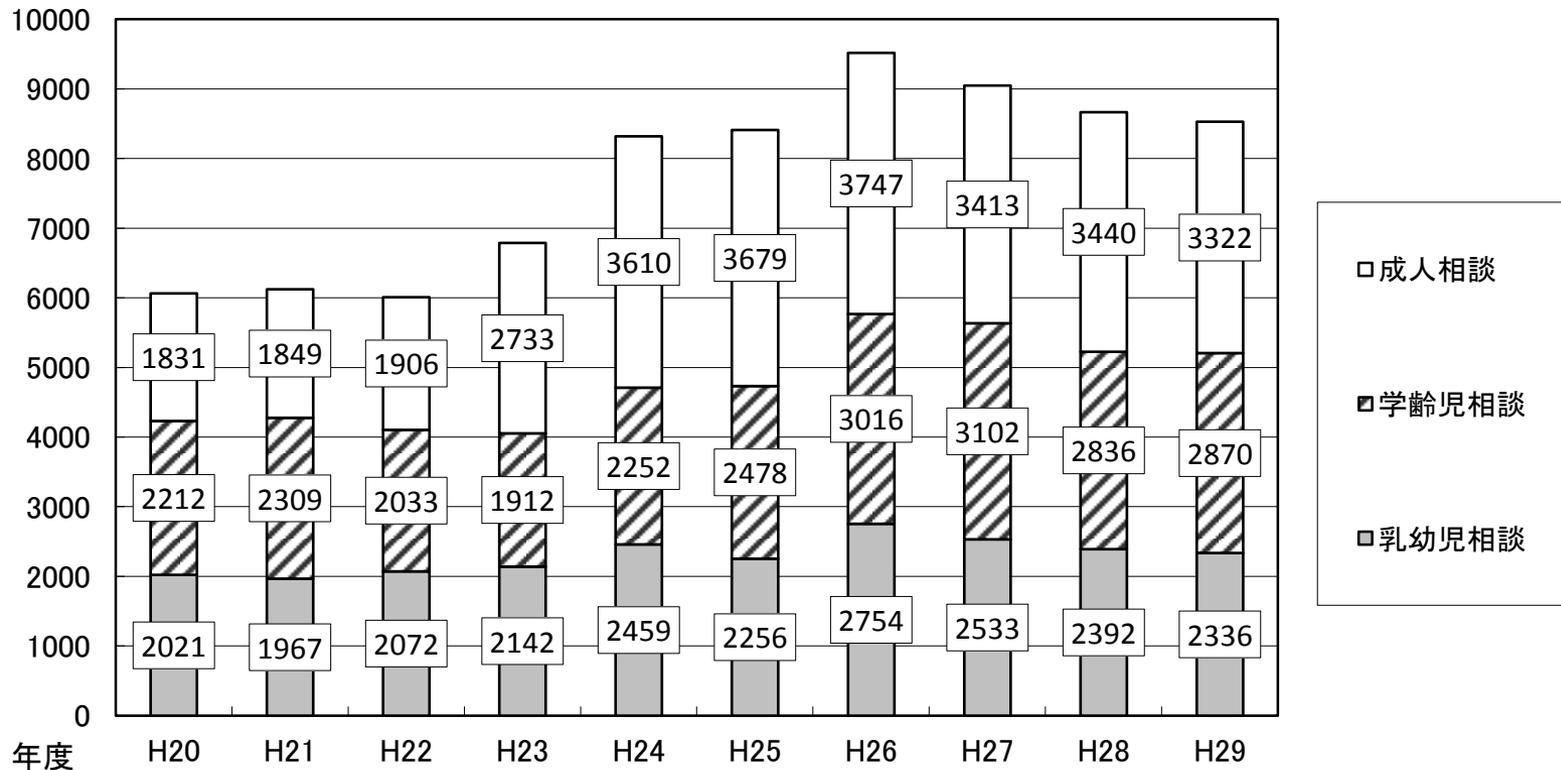
※平成24年度: 南部アーチル開所後

## 新規相談件数の推移(ライフステージ別)



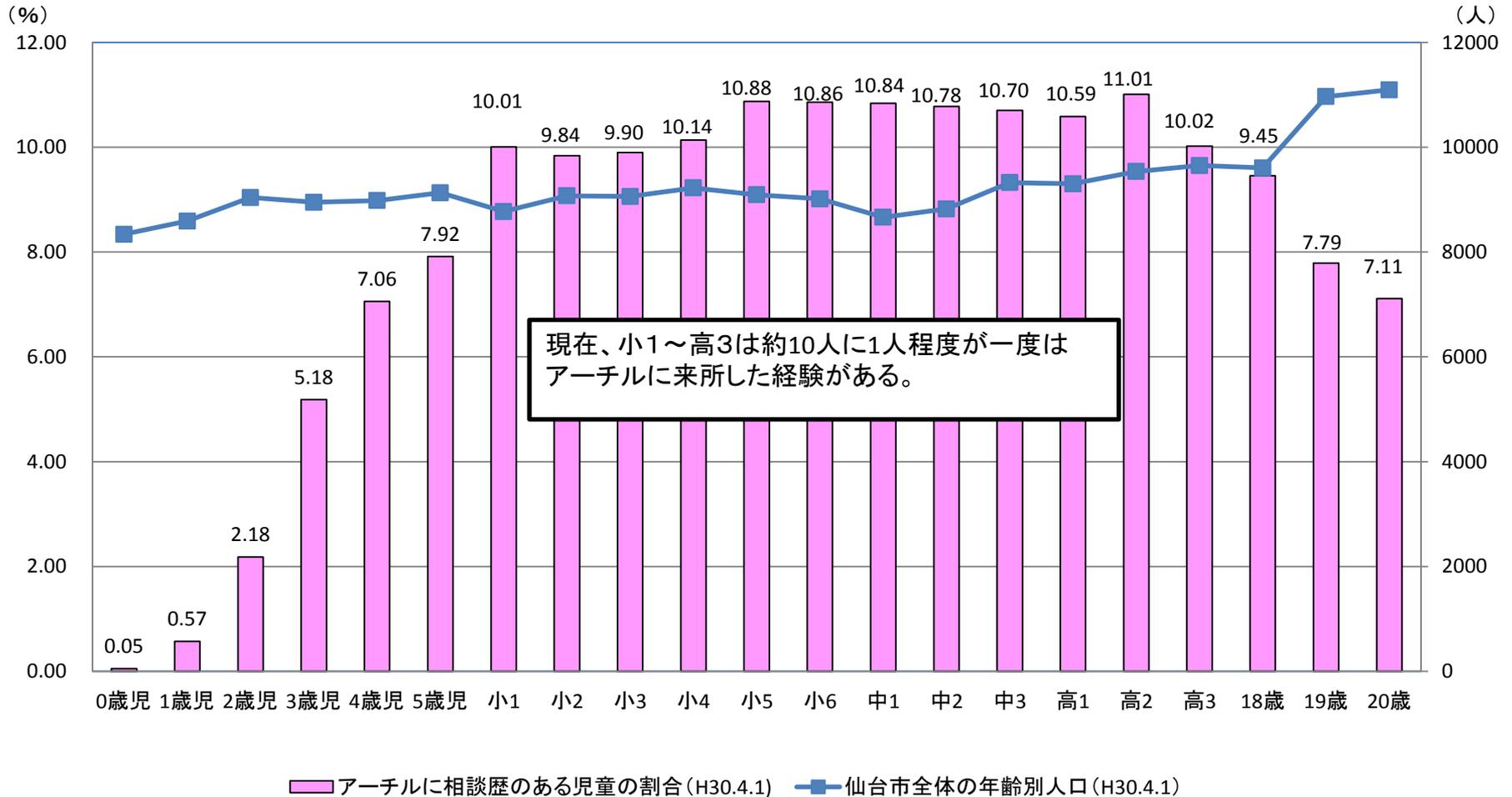
- ・全体としては、乳幼児健診からつながる2歳代の相談をピークとしているが、近年、4～5歳児の新規相談も増加傾向であり、幼稚園や保育所等の集団に入った後に相談につながるケースが増加している。
- ・ライフステージ別にみると、各ライフステージともに新規相談は増加している。乳幼児、学齡相談は10年前に比べ、約1.4倍、成人相談は2倍以上となっている。

## 継続相談の推移(ライフステージ別)



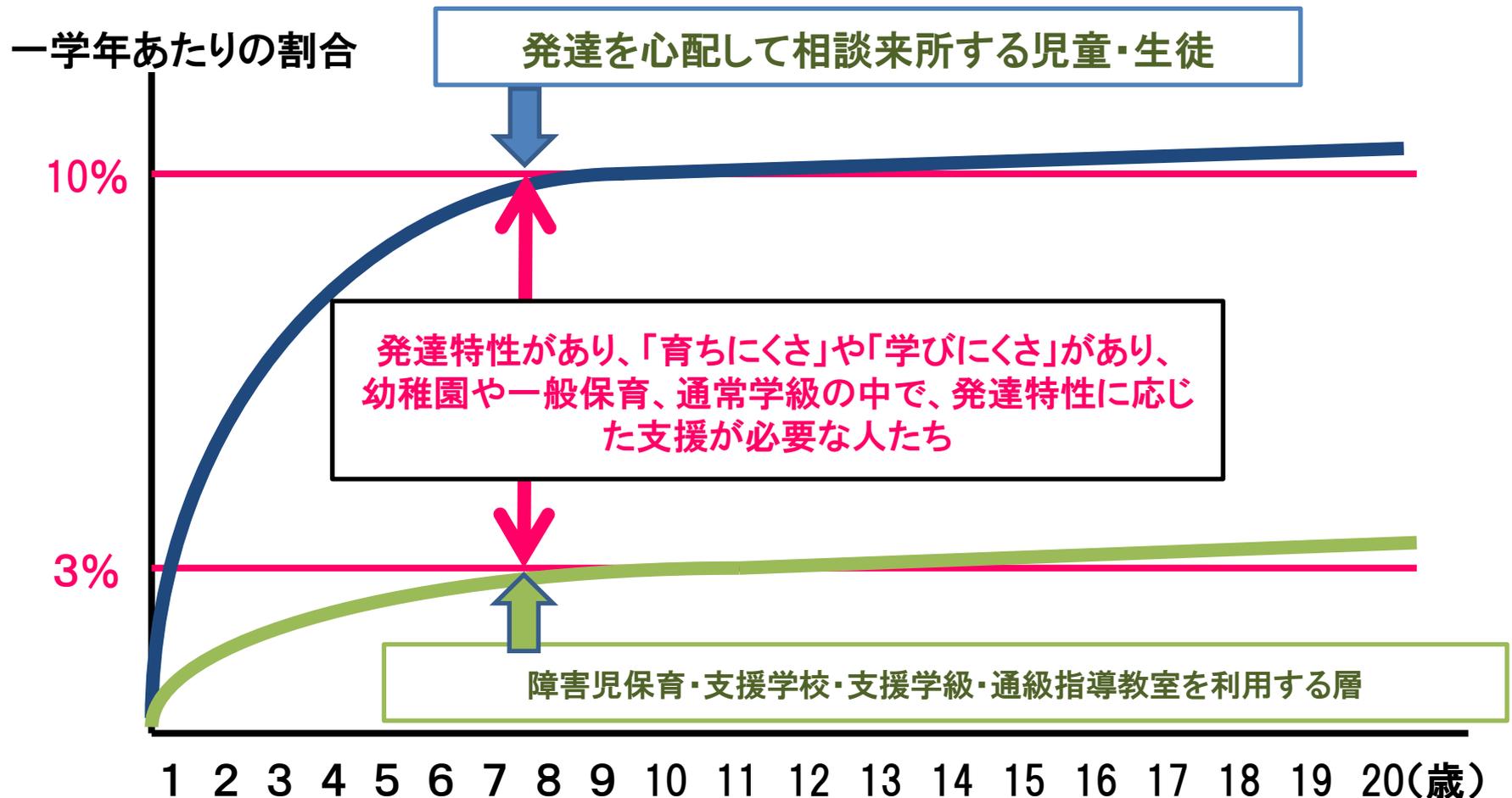
・特に成人の継続相談件数が増加している。平成24年以降、3,000件を超えた件数となっており、本人が安心して相談できる社会資源が不足している。

# アーチルに相談歴のある児童の割合



- ・現在、小学校1年生から高校3年生まで、約10人に1人程度、一度はアーチルに相談に来ている。
- ・知的な遅れはなく、障害特性が分かりにくい事例が増加し、多くは通常学級に在籍している。

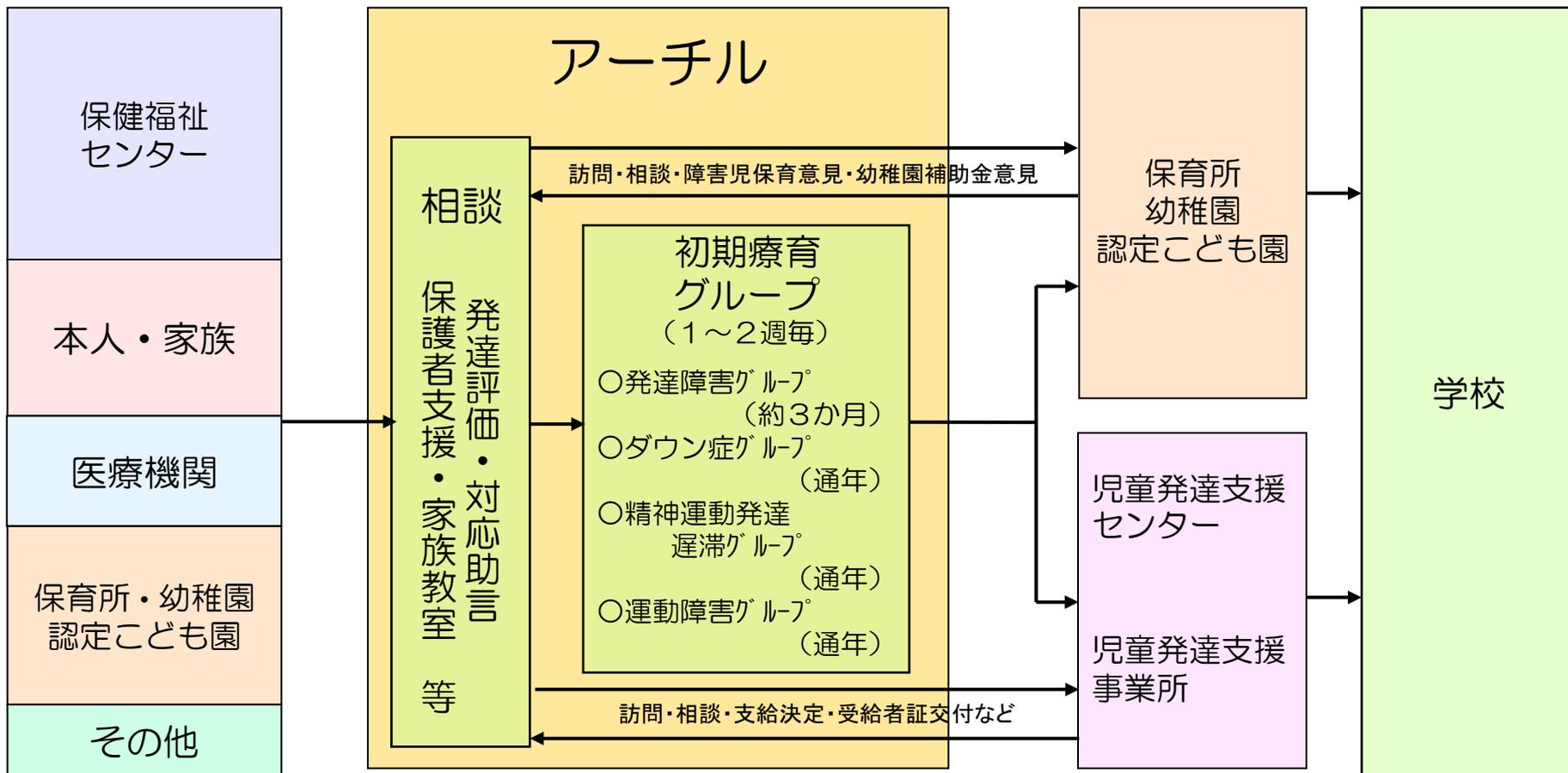
# 発達的な「困り感」を抱えている児童



### 3 ライフステージごとの発達障害児者支援の現状と課題

#### (1) 乳幼児期を取り巻く現状と課題

##### 仙台市の就学前療育体系



受付から相談までに時間がかかる

アイル(本人理解のためのツール)を  
活用しきれていないとの声

# 区保健福祉センターでの乳幼児健診の受診者数および受診率(H29年度)

項目	回数	受診者数	受診率(%)
1歳6か月児健康診査	211	8,795	98.2
2歳6か月児歯科健康診査	212	8,637	94.3
3歳児健康診査	216	8,292	93.5
健診事後教室	137	1,023(延べ)	

・健診において、発達面が気になる児についてアーチルへ紹介している。また、健診後の事後教室でも、発達面で気になる児をフォローしながら、必要時アーチルへの紹介を行い、早期出会いを実現している。

# 障害児等保育の実施状況

## 【障害児等保育 入所児童の推移】

	公立保育所		私立保育所・認定こども園		合計	
	実施個所数	人数	実施個所数	人数	実施個所数	人数
H25	45	167	62	189	108	356
H26	46	190	63	183	109	373
H27	44	210	73	223	116	433
H28	42	210	78	261	120	471
H29	41	204	98	287	139	491

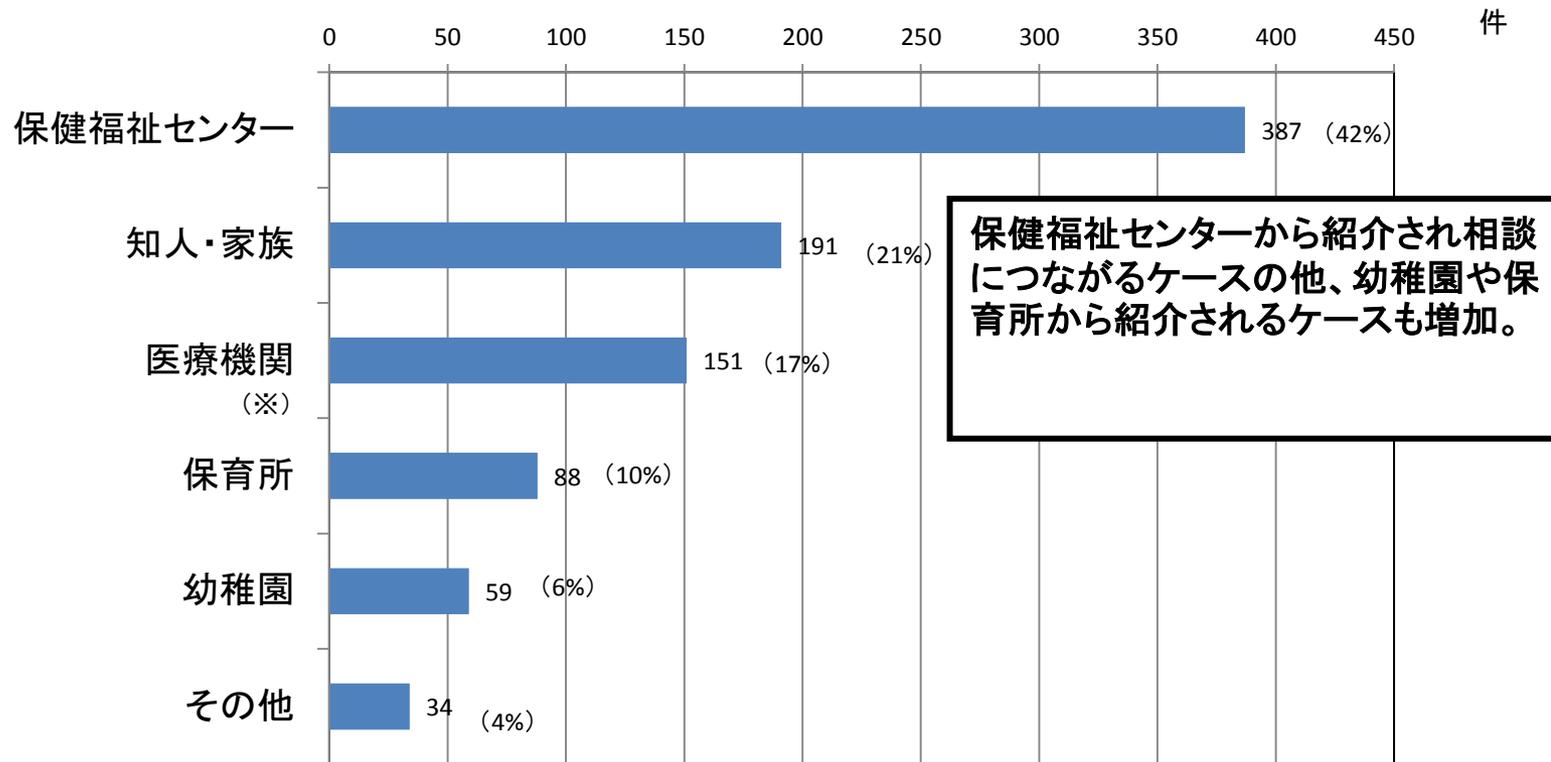
## 【障害児等保育 入所児童・年齢別内訳】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	3歳未満児
公立	1	6	6	46	68	77	204	13
私立	1	5	11	61	101	99	278	17
認定こども園	0	0	0	3	2	4	9	0
計	2	11	17	110	171	180	491	30

障害児等保育は、公立保育所において、対象となる児童3人に対し、1人の保育士が加配される。私立保育所・認定こども園に対しては、助成金が交付される。アーチルは、専門機関として児童の発達特性や必要な支援について評価を行っている。

# アーチル乳幼児相談の傾向

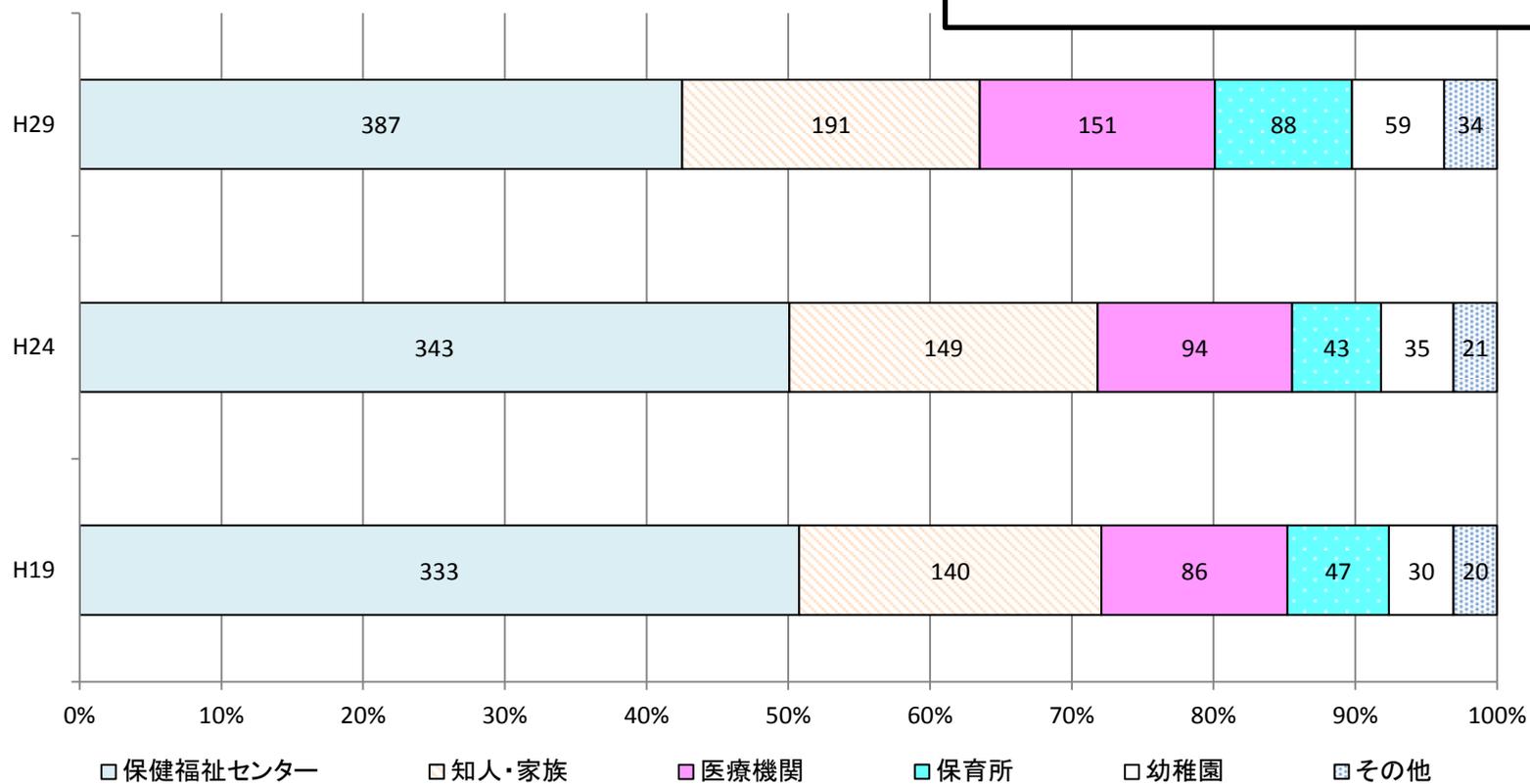
## 乳幼児新規相談・紹介経路別件数(H29年度)



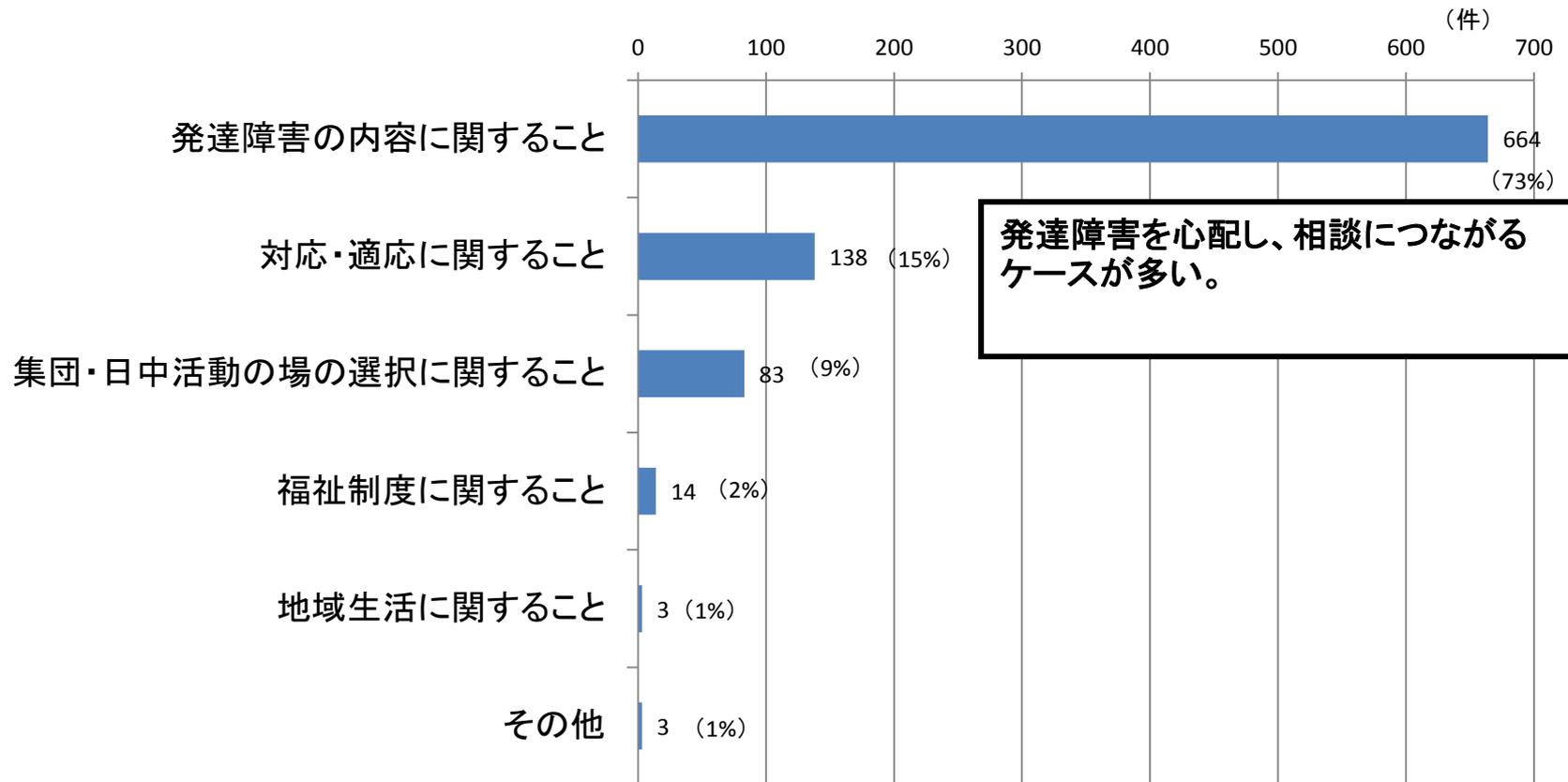
※ヒアリングセンターも含む

## 乳幼児新規相談・紹介経路別の推移

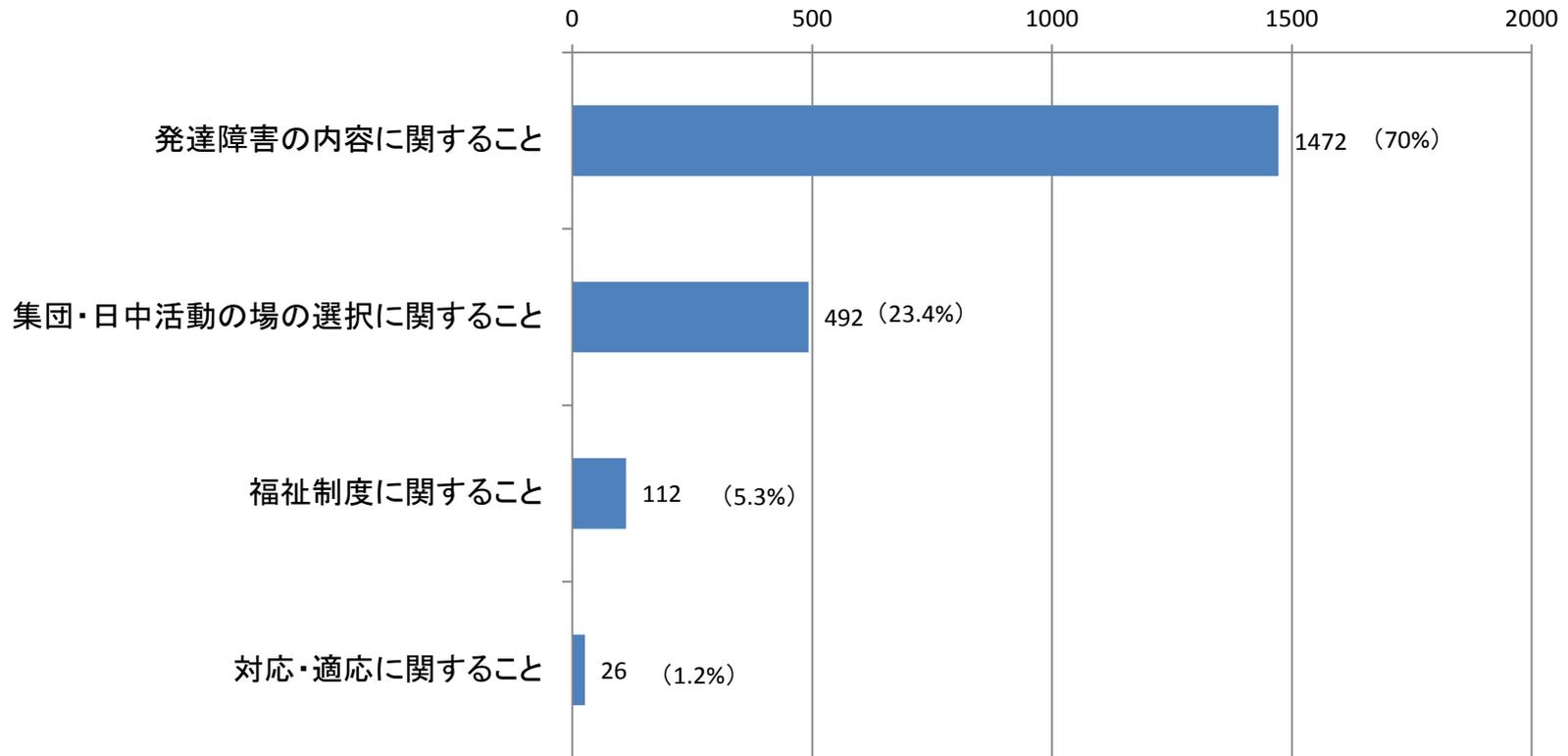
保育所・幼稚園からの紹介により相談につながるケースが増加。



## 乳幼児新規相談・主訴別件数(H29年度)

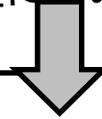


## 乳幼児継続相談・主訴別件数(H29年度)



## 【乳幼児相談から見える現状と課題】

- ・紹介経路としては、保健福祉センターからの紹介が最も多く、早期出会い・早期支援の状況が見てとれる。しかし近年は、幼稚園や保育所に在籍している児の相談割合が増加している。
- ・主訴としては、「発達障害の内容に関すること」が最も多い。健診や保育所、幼稚園など通園先からアーチル相談を勧められて来所することが多いが、発達障害に関する知識が以前よりも普及し多種多様な情報が氾濫しており、保護者が不安になって来所する場合も少なくない。
- ・保護者が子育てのしづらさについて、「発達障害ではないか」と心配して来所につながるが、障害特性が分かりにくい児が増加している。また、養育上の課題を抱えた家族の増加、DVや虐待が複雑に絡み合っている相談も増加している。



- ・障害部門、子育て部門が単独で支援を行うのではなく、障害部門と子育て部門の連携・協働により、課題解決していく必要がある。
- ・これまで以上に、幼稚園や保育所との連携の強化を行う必要がある。

## (2) 学齡児期を取り巻く現状と課題

### 特別支援教育の現状

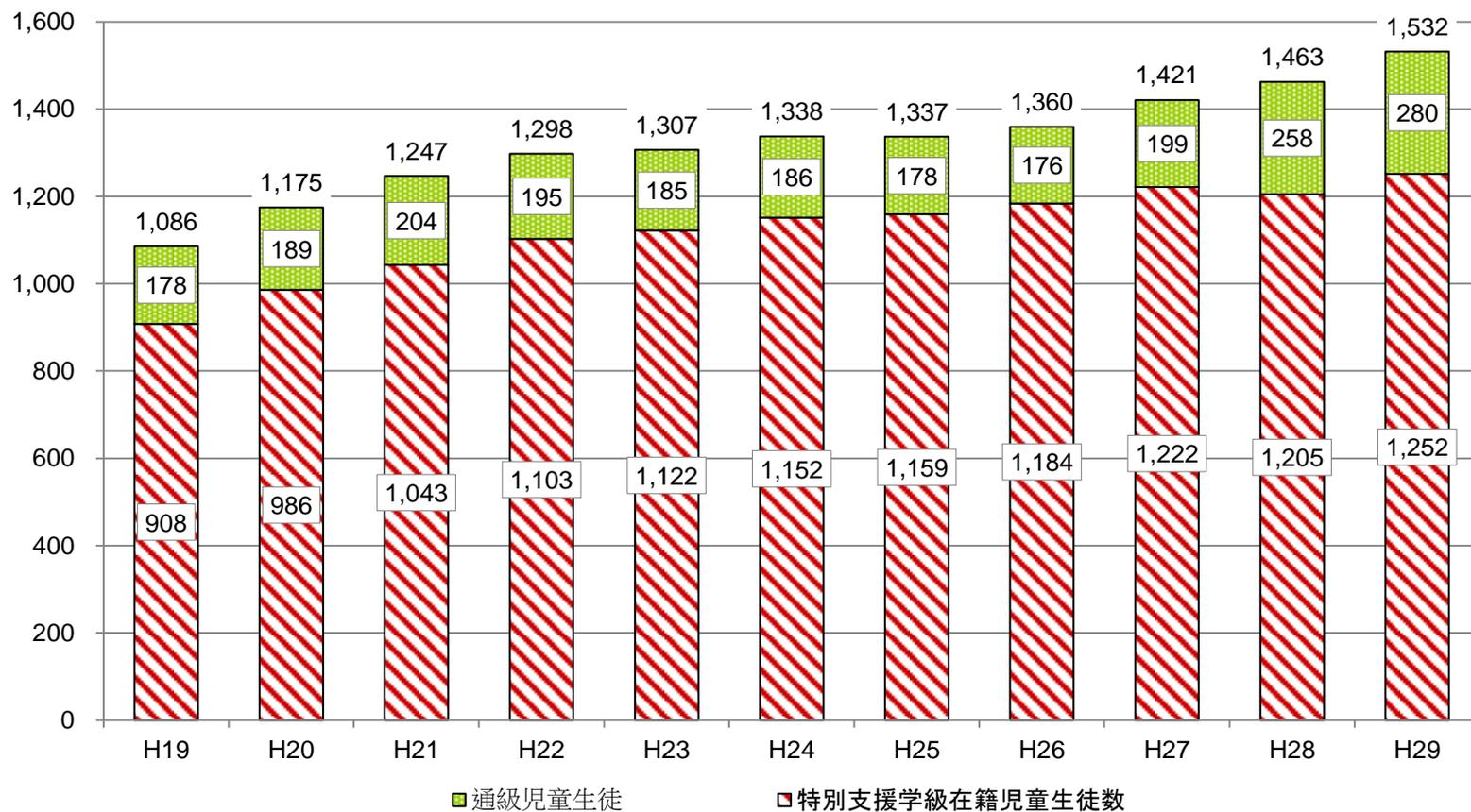
市立学校在籍児童生徒数に対する特別な教育の場を活用している児童生徒数の割合

年度		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
市立学校在籍者数	小学校 特別支援学校小学部	55,208	55,194	54,748	54,806	53,488	53,373	53,022	52,785	52,689	52,300	52,558
	中学校 中等教育学校前期課程 特別支援学校中学部	26,489	26,373	26,509	26,452	26,757	26,931	27,113	26,893	26,620	26,309	25,668
	全児童生徒数 計	81,697	81,567	81,257	81,258	80,245	80,304	80,135	79,678	79,309	78,609	78,226
人数 特別な教育の場を活用している	通級による指導 対象児童生徒数	178	189	204	195	185	186	178	176	199	258	280
	特別支援学級 在籍児童生徒数	908	986	1,043	1,103	1,122	1,152	1,159	1,184	1,222	1,205	1,252
	特別支援学校 在籍児童生徒数(※)	88	93	91	92	99	103	98	91	94	93	92
	児童生徒数 計	1,174	1,268	1,338	1,390	1,406	1,441	1,435	1,451	1,515	1,556	1,624
全児童生徒数に占める特別な教育の場を活用している児童生徒の割合		1.44%	1.55%	1.65%	1.71%	1.75%	1.79%	1.79%	1.82%	1.91%	1.98%	2.08%

※鶴谷特別支援学校

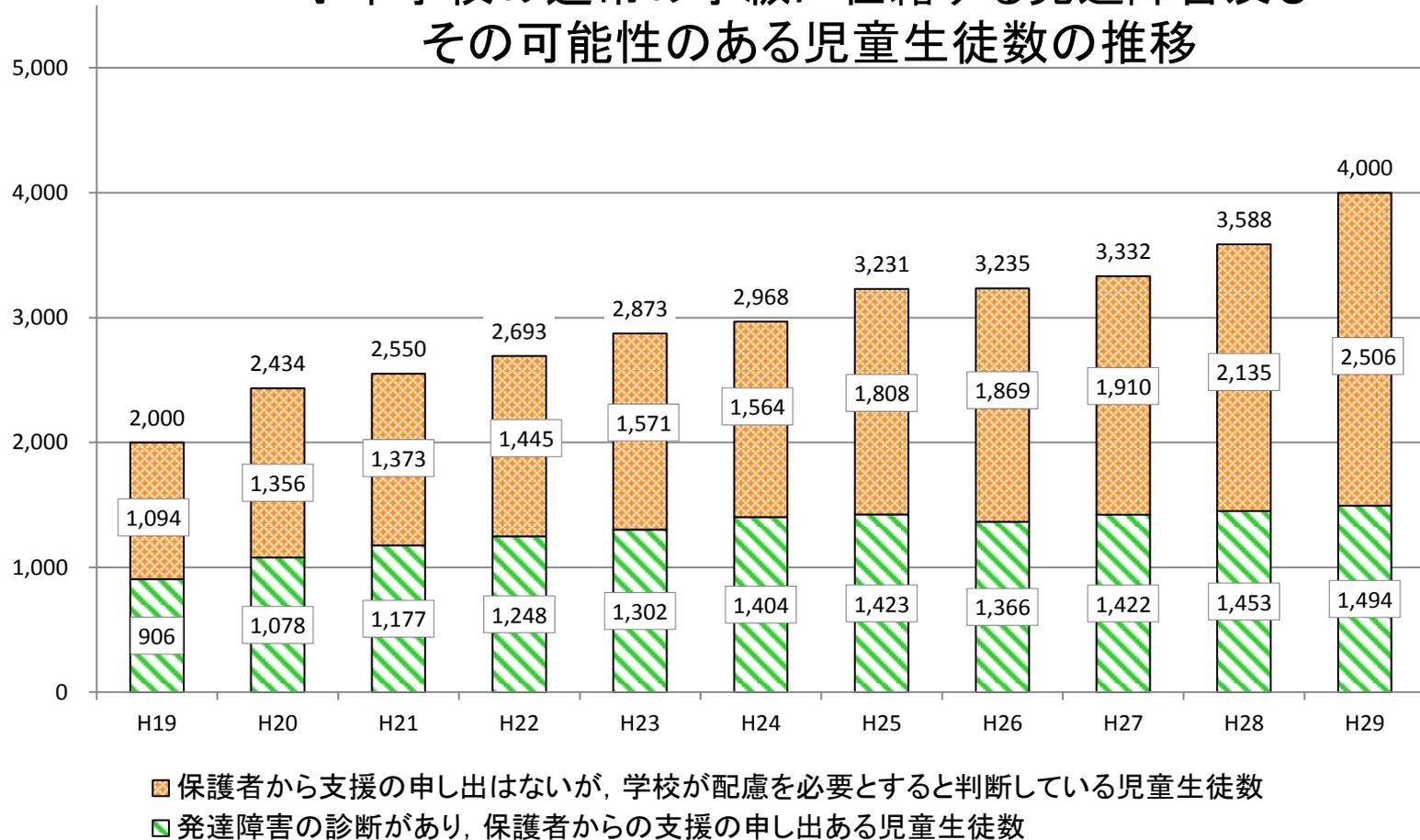
・全体の児童生徒数は減少傾向だが、特別な教育の場を活用している児童生徒は増加している。

## 小中学校の特別支援学級在籍者数及び通級児童生徒数の推移



・特別支援学級在籍者数、通級児童生徒数ともに増加している。

## 小中学校の通常の学級に在籍する発達障害及びその可能性のある児童生徒数の推移

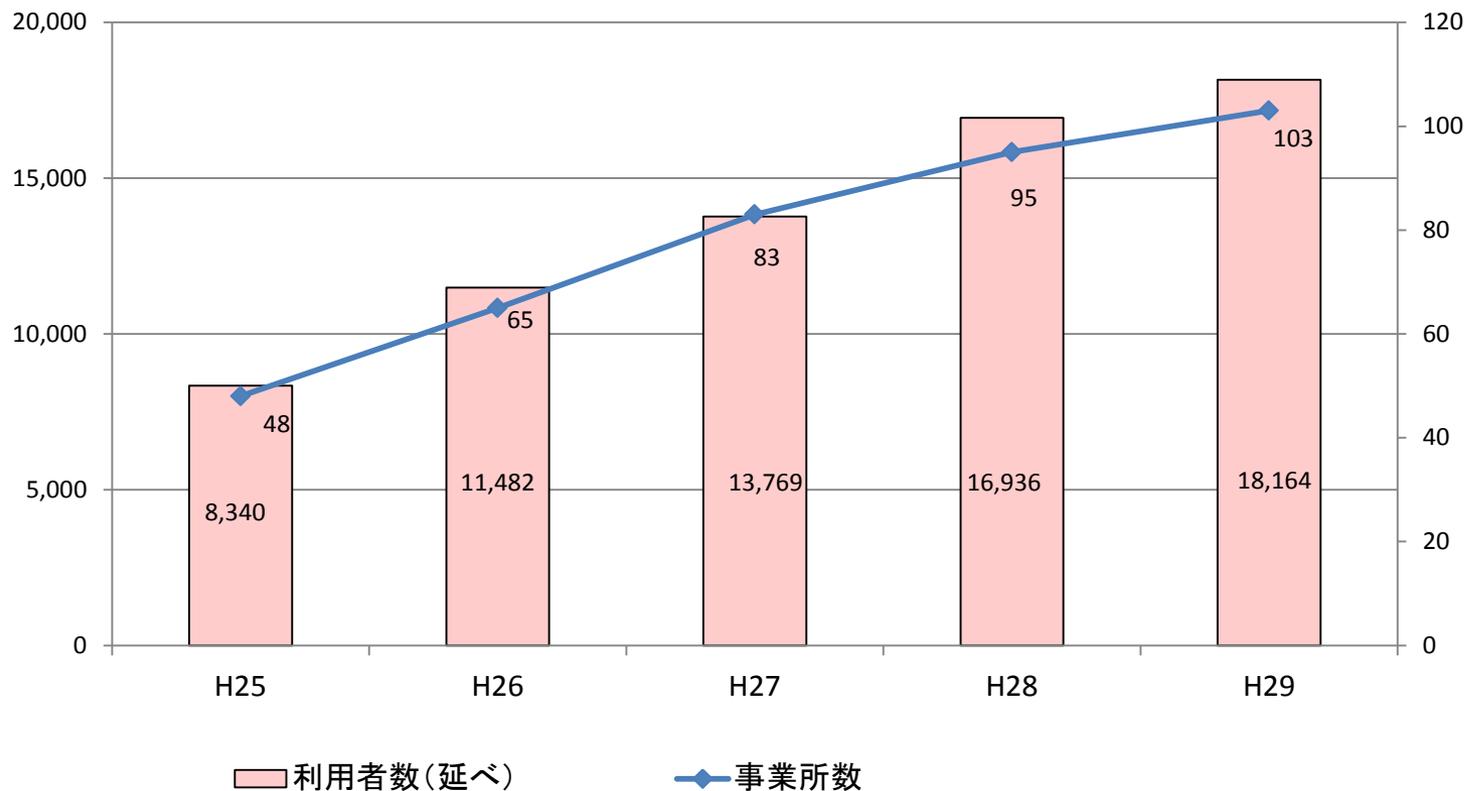


「発達障害等の幼児児童生徒への教育支援に係る調査」  
 ※各年度7月1日時点

・通常の学級に在籍する児童生徒の中にも、発達障害およびその可能性のある児童生徒数は増加している。

# 学齢期の発達障害児に対する放課後支援の現状

## 放課後等デイサービス事業所および利用者数の推移



※各年度末の事業所数、利用者数

・放課後等デイサービス事業所数、延べ利用者数ともに増加している。

# 放課後等デイサービス利用者および療育手帳交付状況

年齢	放デイ利用者計	療育手帳あり		療育手帳なし
		A	B	
6歳	128	16	53	59
7歳	195	39	78	78
8歳	169	34	72	63
9歳	163	38	62	63
10歳	175	44	64	67
11歳	167	45	83	39
12歳	116	35	57	24
13歳	143	49	68	26
14歳	121	39	66	16
15歳	133	55	66	12
16歳	135	58	65	12
17歳	103	54	45	4
18歳	26	10	14	2
<b>計</b>	<b>1774</b>	<b>516</b>	<b>793</b>	<b>465</b>

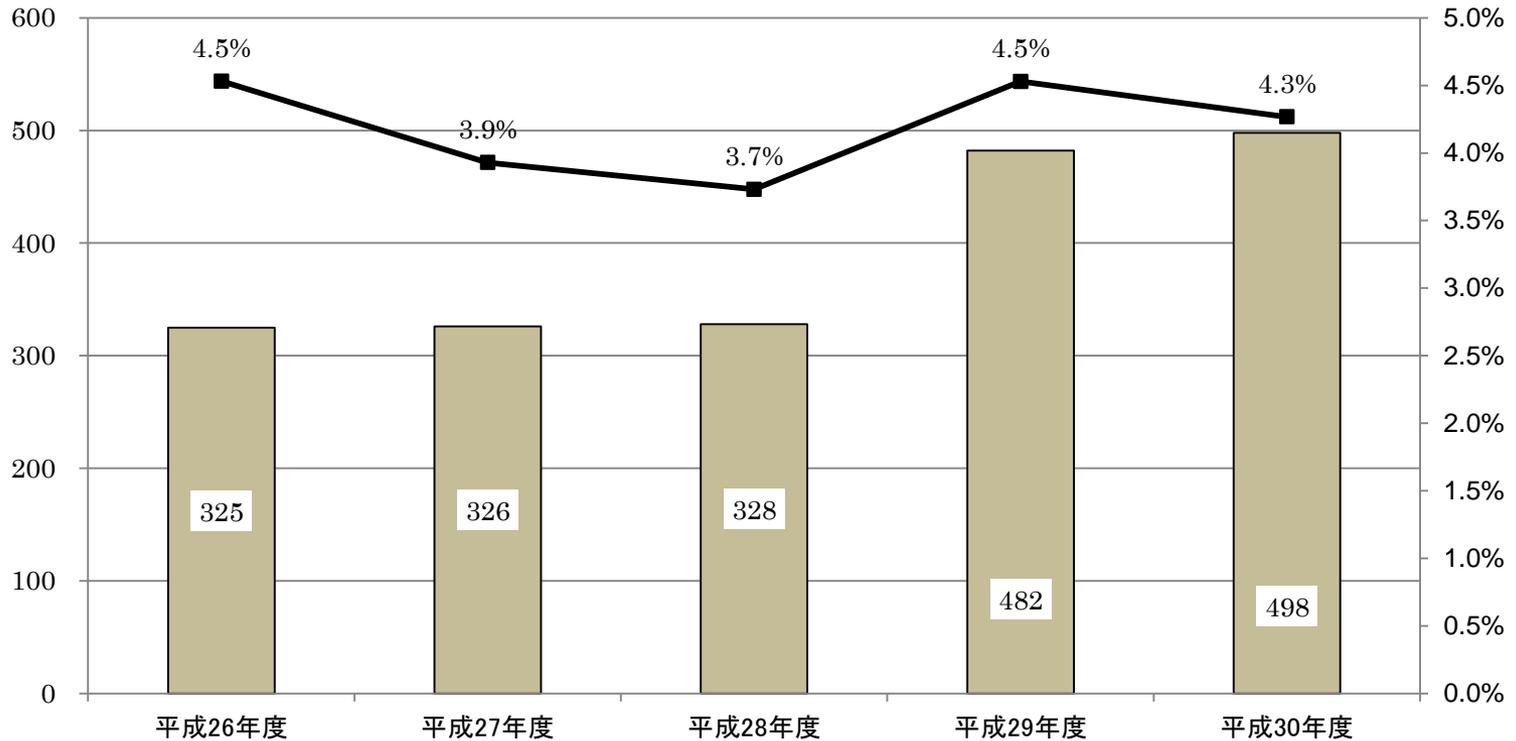
※平成30年7月現在

・小学校期(特に低学年)については、療育手帳を所持していない利用者が多い。知的障害を伴わない発達障害の児も多く、アーチルでは児童の発達特性や必要な支援に関する評価を行っている。

## 児童クラブにおける要支援児の推移

要支援児数（人）

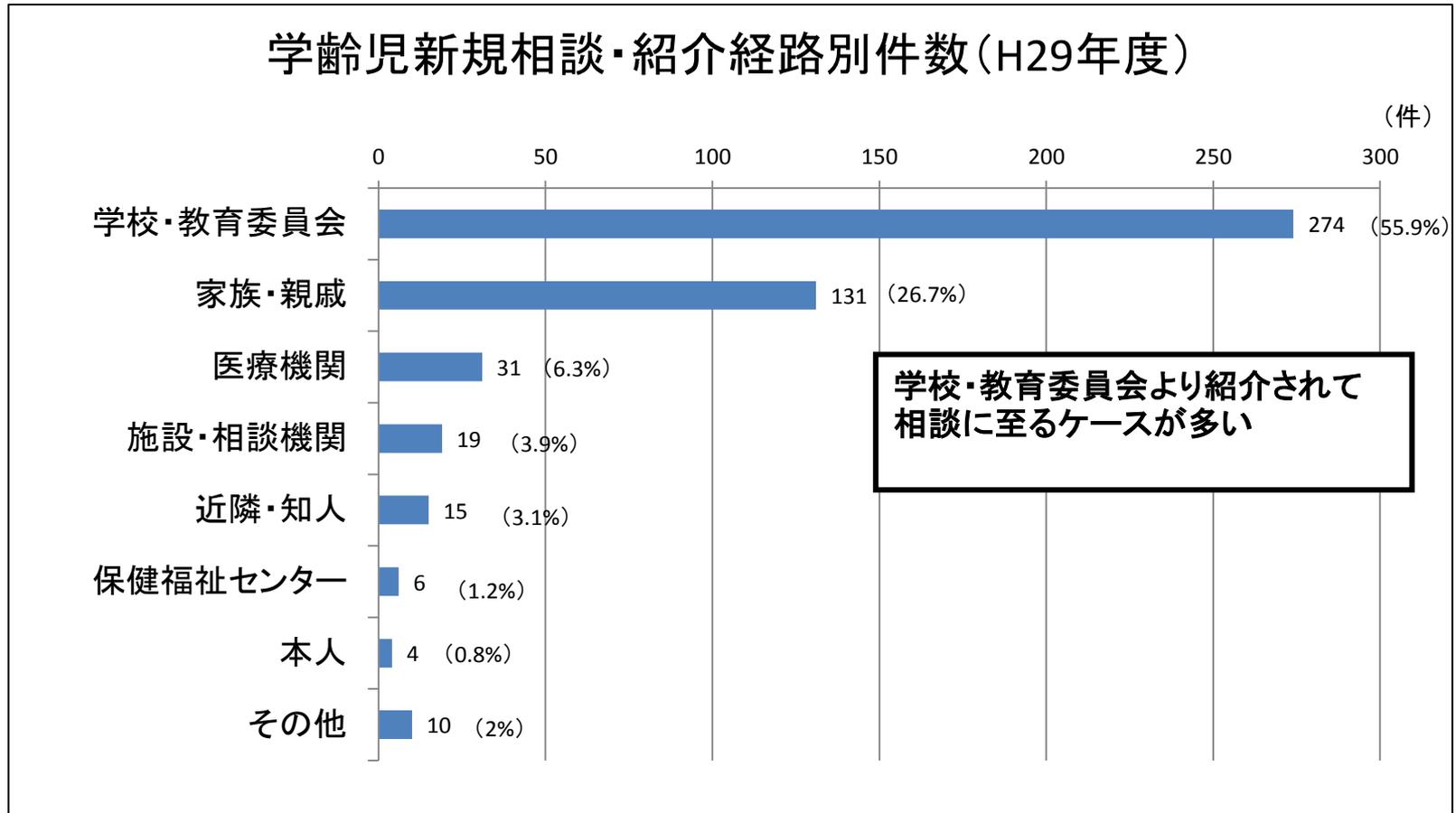
要支援児数が登録児童数に占める割合



※各年度4月1日時点

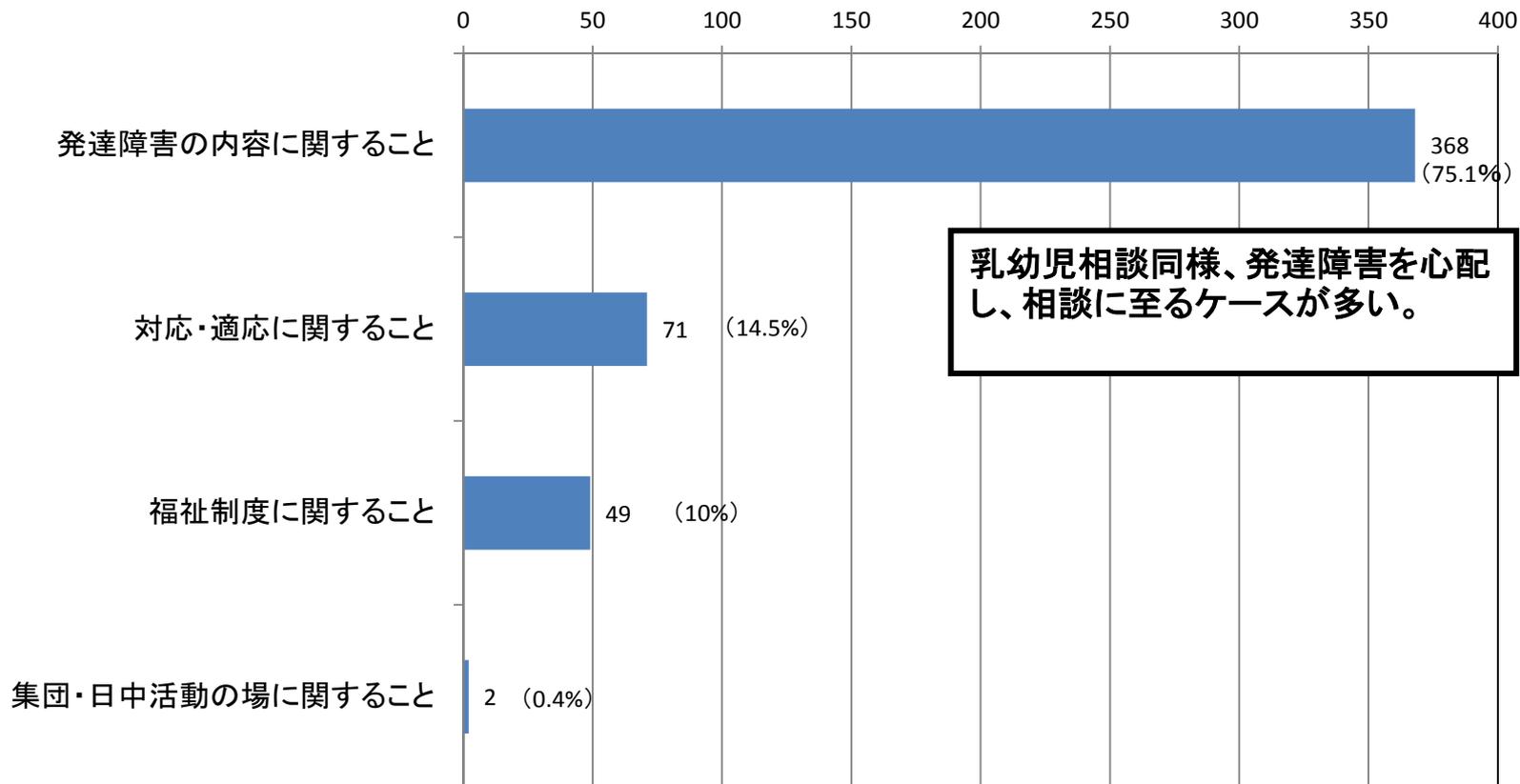
・障害等の支援を要する児童数が増加しており、要支援児数に応じて職員を加配し対応している。

# アーチル学齡児相談の傾向

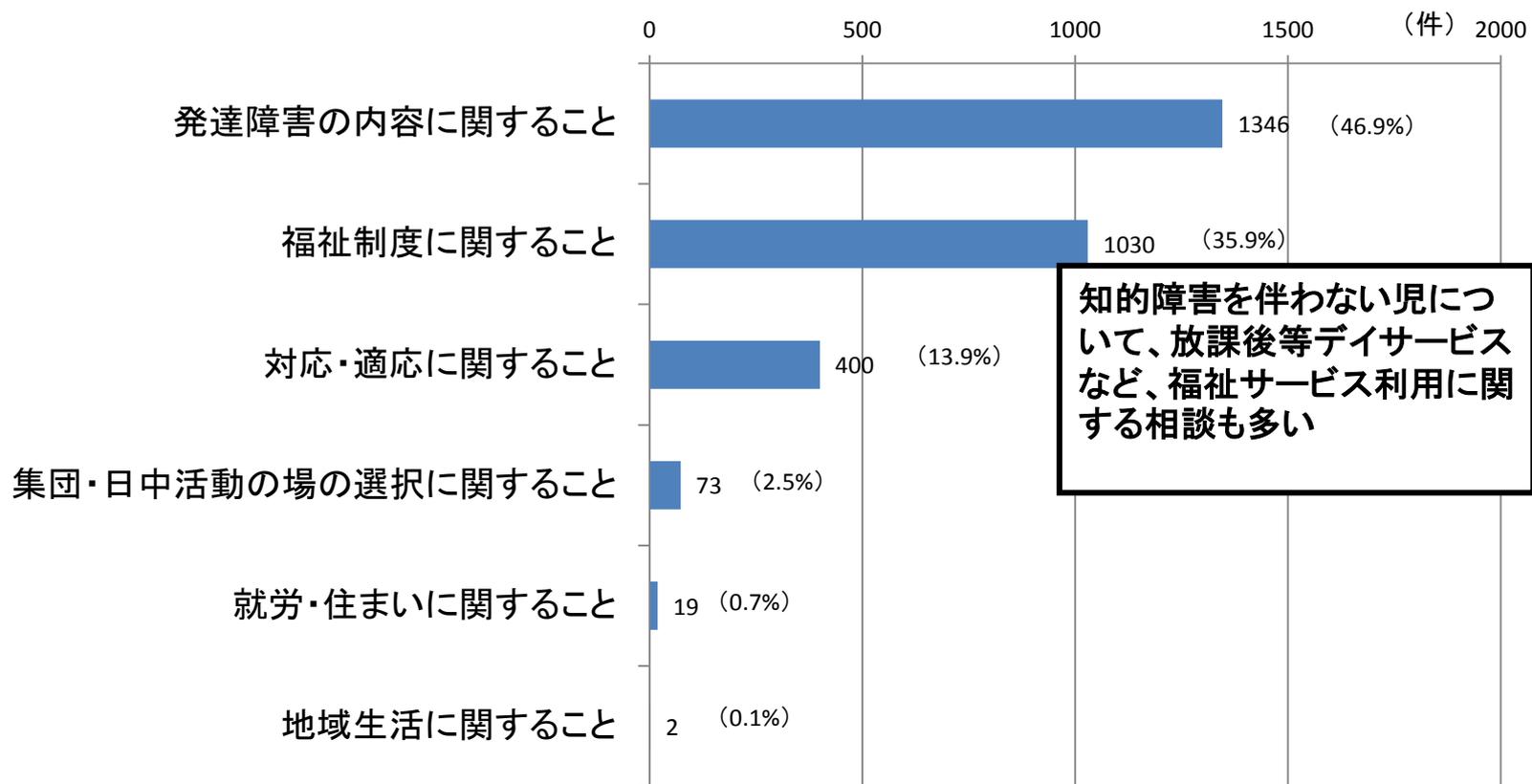


## 学齡児新規相談・主訴別件数(H29年度)

(件)

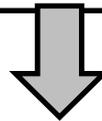


## 学齡児継続相談・主訴別件数(H29年度)



## 【学齡児相談から見える現状と課題】

- ・通常学級に在籍している児童に関する相談が多く、学校からの紹介が多い。
- ・相談の主訴では、「発達障害ではないか」と子どもの発達を心配し来所する相談が多い。知的な遅れはなく、より障害特性が分かりにくい児が多く、学校での不適應を起こしていたり、不登校となっている児童もいる。
- ・虐待ケース、触法行為等の課題がいくつも絡み合っている複雑困難な事例が増加している。
- ・知的障害を伴わない発達障害児の福祉サービス(放課後等デイ)利用希望者が増えており、放課後支援のニーズも高い。



- ・通常学級に在籍する児童への対応では、学校や教育委員会との日常的な連携を強化する必要がある。
- ・知的障害の伴わない児童について、学校の他に放課後支援の充実を検討する必要がある。
- ・複雑困難な事例に対応していくため、関係機関とのさらなる連携強化が求められている。

### (3) 成人期を取り巻く現状と課題

#### 障害福祉サービス事業所数の推移

	H25	H26	H27	H28	H29
生活介護	56	56	59	59	62
就労移行支援	30	28	32	35	34
就労継続A型	15	13	16	18	18
就労継続B型	65	65	74	79	85

※各年度、4月1日時点

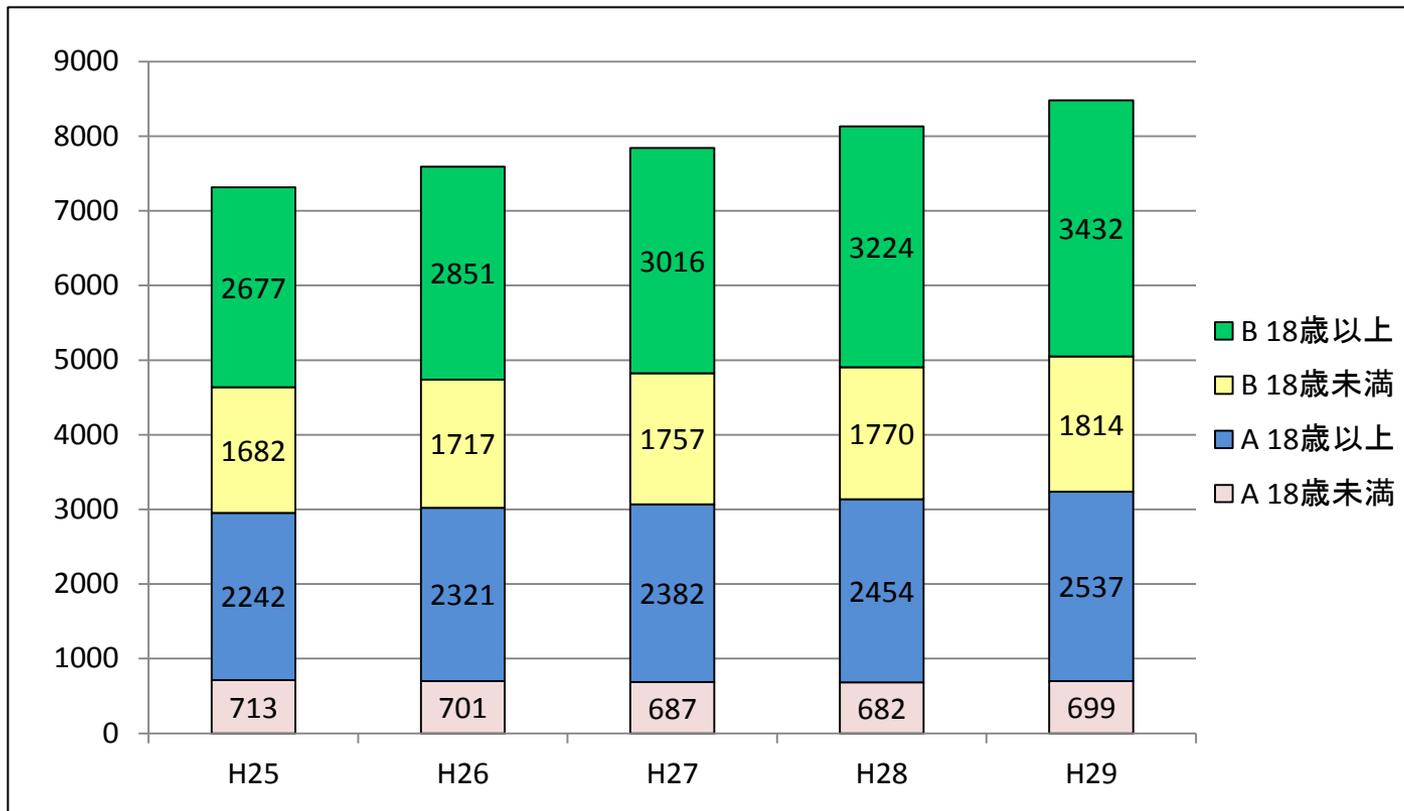
#### 福祉施設の利用者における一般就労への移行者数

H25	H26	H27	H28
162	154	170	192

#### 就労移行支援事業の利用者数および就労移行支援事業所ごとの移行率

	H25	H26	H27	H28
就労移行支援の利用者数	334	319	288	360
就労移行支援事業所ごとの移行率	30.0	23.1	38.7	29.7

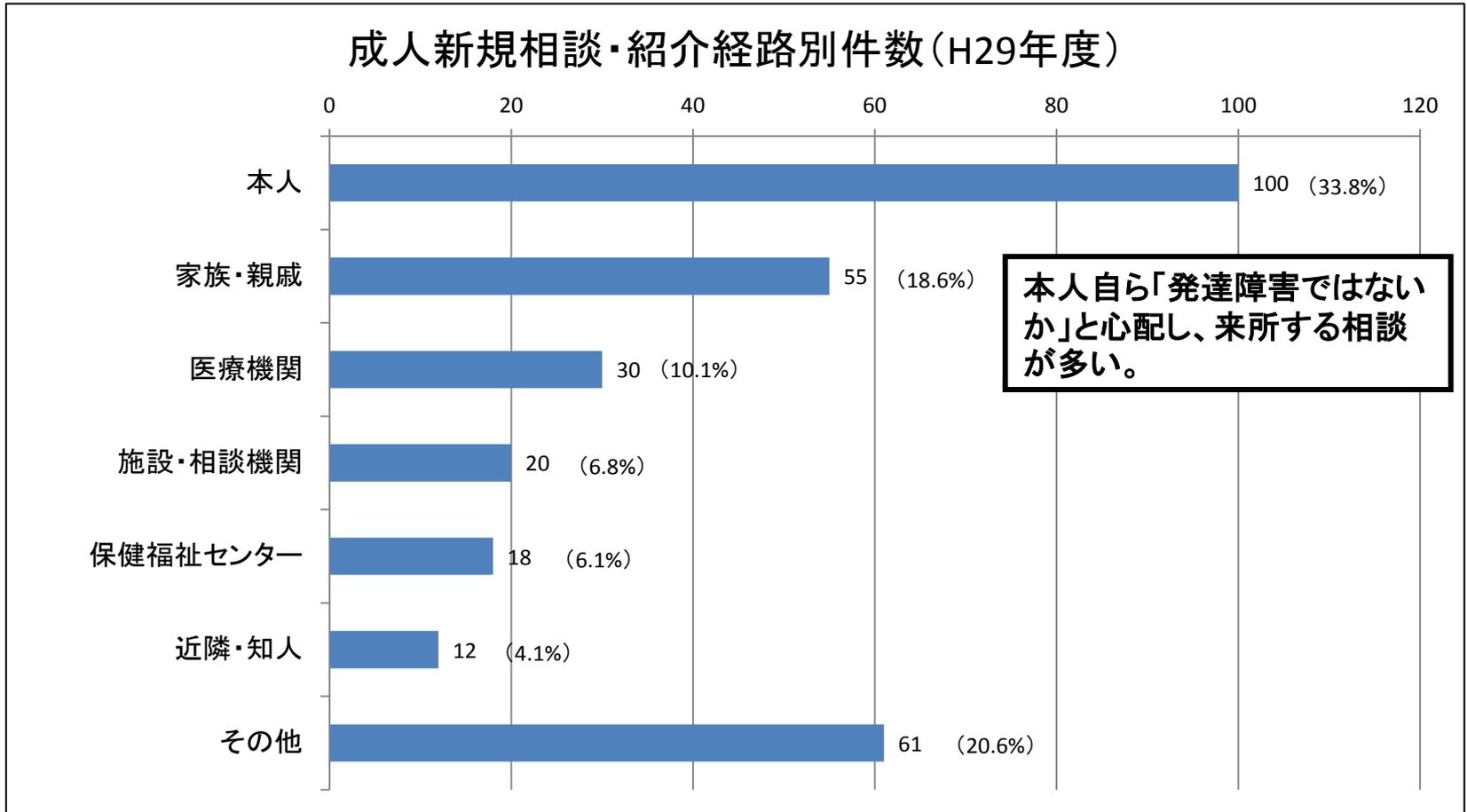
# 療育手帳所持者数の推移



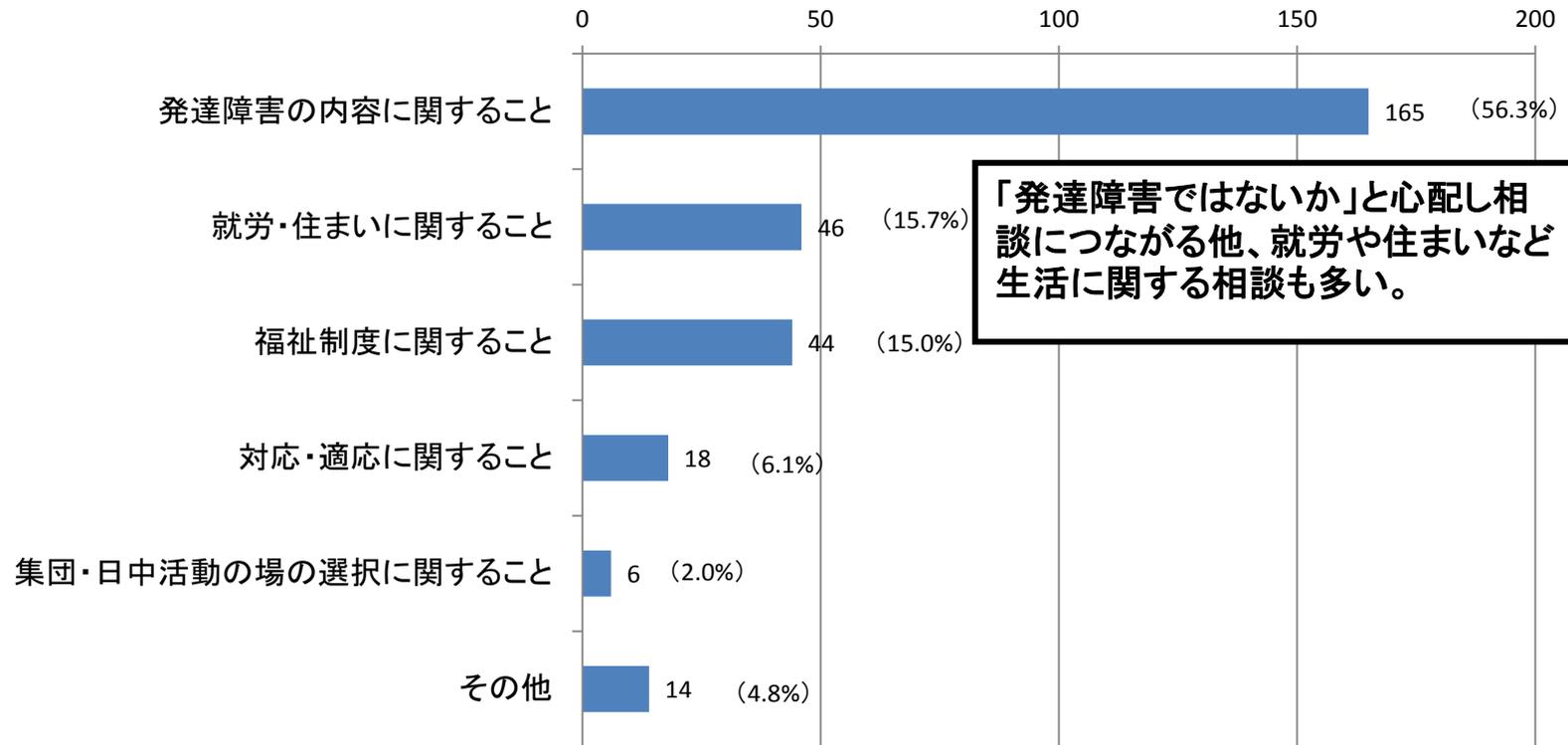
	H25	H26	H27	H28	H29
<b>A</b>	2,955	3,022	3,069	3,136	3,236
<b>B</b>	4,359	4,568	4,773	4,994	5,246
<b>合計</b>	7,314	7,590	7,842	8,130	8,482

※各年度末時点

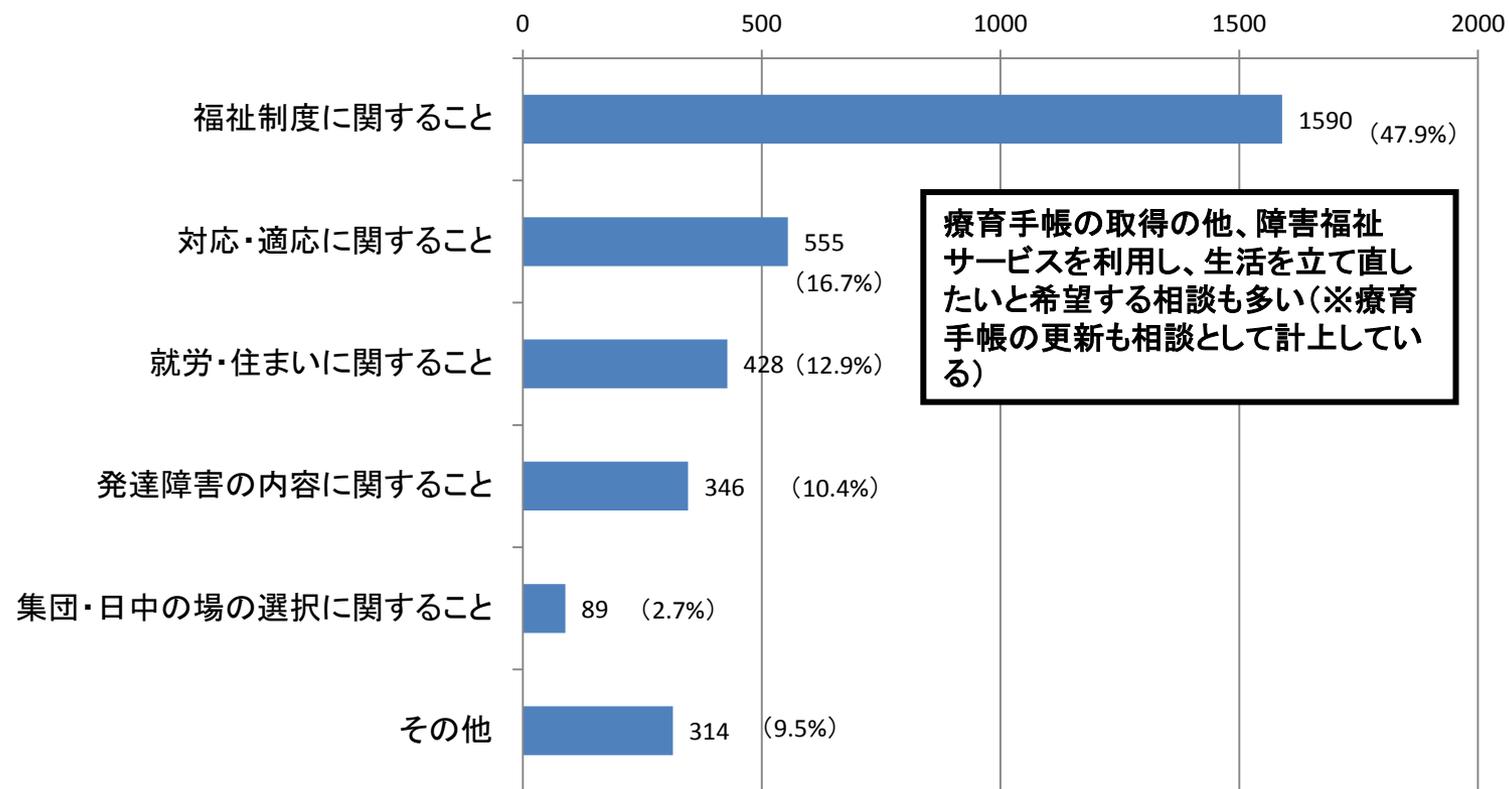
# アーチル成人相談の傾向



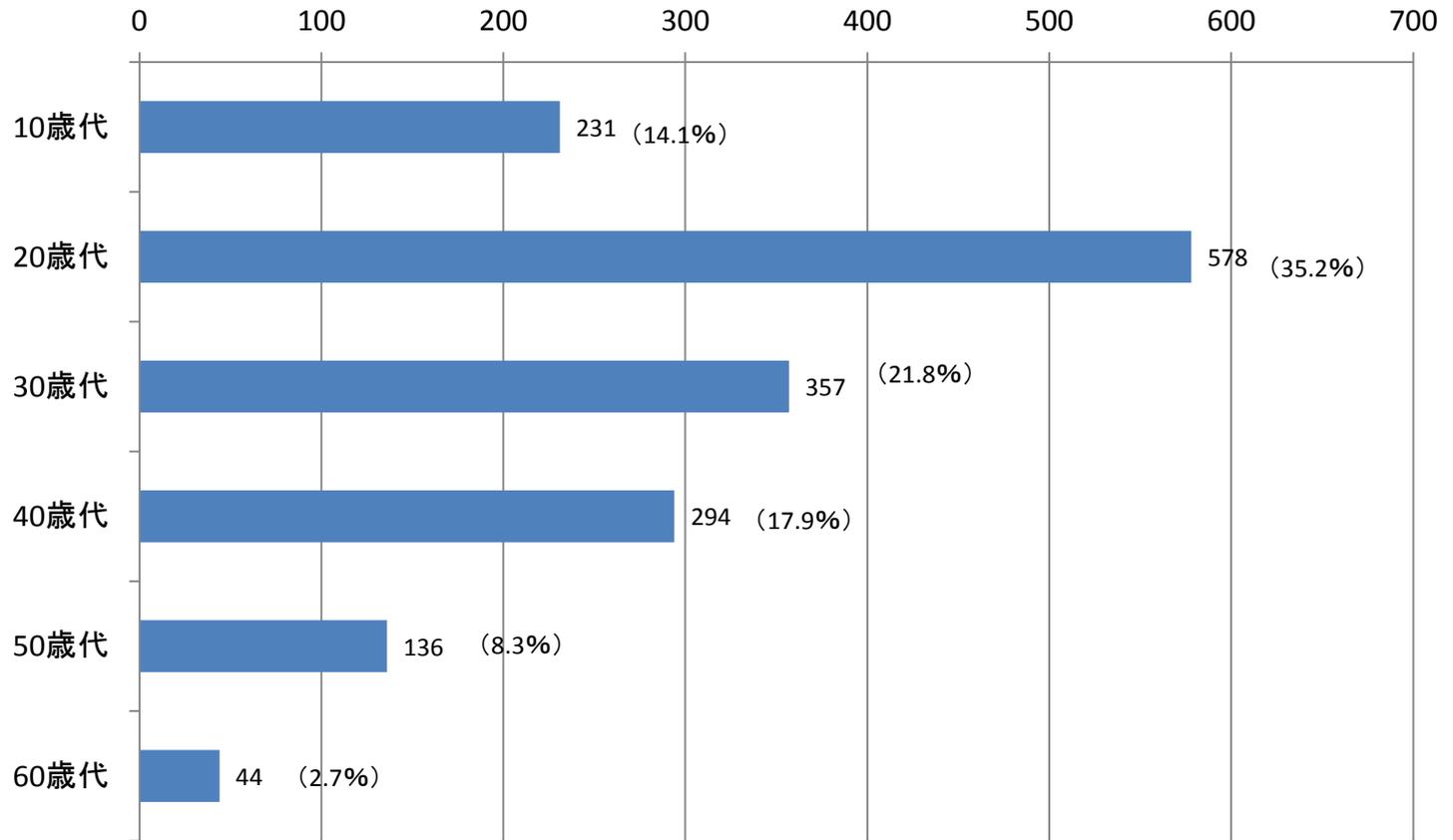
## 成人新規相談・主訴別件数(H29年度)



## 成人継続相談・主訴別件数(H29年度)

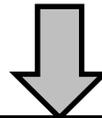


## 成人継続相談・年齢別(実人数) H29年度



## 【成人相談から見える現状と課題】

- ・就労継続困難の状況となり、生活のしづらさや生きにくさ等を、発達障害と結び付け、自ら来所するケースが増加している。
- ・継続支援者数も増加し、特に20代の相談が多い。
- ・長期引きこもり、家庭内暴力により家庭生活が困難になっているケースの他、精神疾患併発、触法行為が課題となるケースなど、学齢期よりさらに複雑困難な事例が多い。様々な課題が絡み合っており紐解いていくプロセスは複雑で、本人との関係性を構築するまでにも時間を要する。
- ・重症心身障害児者や行動障害等の住まいの場の確保や支援の担い手が不足している。



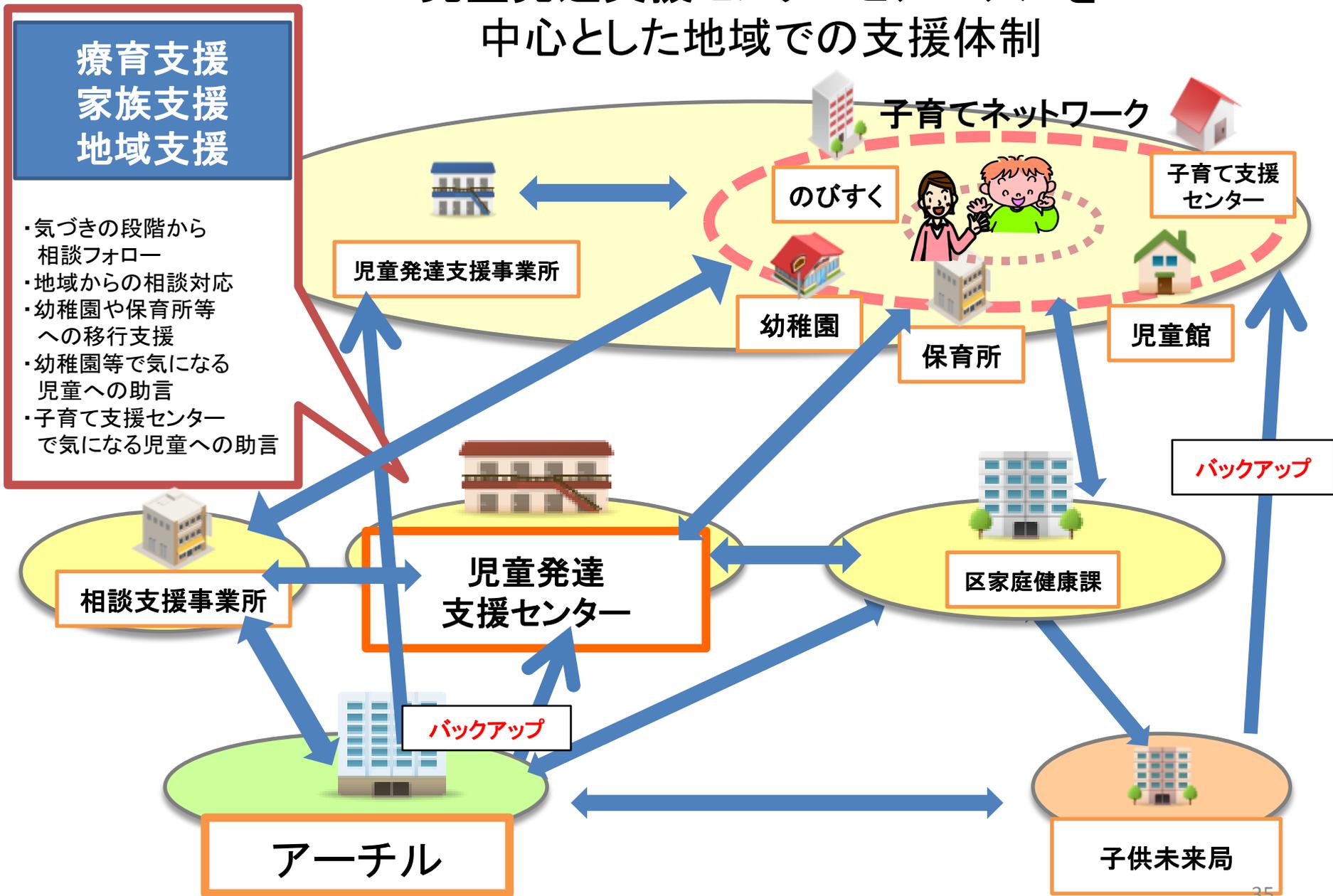
- ・生活に身近な場で、本人が安心して相談できる場など、社会資源を拡充していく必要がある。
- ・これまで構築してきている福祉部門同士の連携の他、医療機関との連携、司法や労働部門との連携を強化していく必要がある。
- ・親亡き後の住まいの場の整備を行う必要がある。

## 4 平成30年度の関係機関との連携強化による主な事業

### (1) 児童発達支援センターにおける地域支援の拡充

- ・本市の就学前療育・発達支援体制をさらに充実させるため、地域での身近な療育拠点として、従来行ってきた発達支援・家族支援に加え、地域相談員を配置し地域支援機能を強化している。
- ・通所している児童や卒園児に限定せずに身近な地域における児童や保護者支援を行っていく。アーチルとともに、地域の幼稚園や保育所等を対象に、施設訪問等を行うなど、地域支援の拡充に取り組んでいく。

# 児童発達支援センターとアーチルを中心とした地域での支援体制



## (2) 発達相談・支援総合情報提供

障害のある児童や発達に不安のある児童への切れ目ない支援を充実させるため、「子どもの発達に関する総合情報提供」を行う。早期療育の重要性を分かりやすく啓発するとともに、発達障害に関する支援窓口や支援事業などの情報を一覧化したパンフレットを作成する。

### ◆冊子を利用する主な対象者

- ・障害のある児童あるいは発達に不安のある児童を抱える保護者

### ◆内容

・「気になる行動への気づき・理解」を促し、保護者が一人で抱え込まずに「相談窓口や支援につながる」よう情報提供を行うとともに、「理解者を広げる」ことで児童の成長を支えていくことを記載する。

### ◆活用場面

- ・区保健福祉センター、子育て支援施設、児童館、学校等で配布

H30年度中に印刷、配布予定

### (3) アーチルと学校の連携強化

アーチルではこれまでも、個別の相談ニーズに応じ、学校訪問等を行い、「ケース検討会の実施」、「支援者会議への参加」、「校内研修への講師派遣」等により、学校との連携を図ってきているが、児童の抱える課題の多様化・複雑化に対応するため、更なる連携強化を図る。

#### 【今年度の取組み】

- ① 連絡票(学校、保護者、アーチルとの情報共有ツール)の利活用促進
- ② サポートファイルの利活用促進に向けた普及啓発
- ③ アーチル常勤医師等によるアウトリーチ支援の充実
- ④ 継続支援を要するケースの定期的な状況確認

### (4) 発達評価体制強化事業

常勤医2名を配置し、発達障害に関する評価機能を強化

- ① 早期診断による支援の迅速化(医療相談、診療)
- ② 地域のかかりつけ医とのネットワーク構築
- ③ 常勤医等による学校へのアウトリーチ支援の充実
- ④ 職員の資質向上

## (5) のびすく子育てコーディネーター(NoKoCo)の配置

のびすく(子育てふれあいプラザ等)において子ども・子育て支援に関するきめ細かな情報提供や相談支援等を行う専門の相談員(愛称:のびすく子育てコーディネーター(NoKoCo))を配置し、子育て家庭の状況に応じた適切なサービスの利用や支援につなげ、子育てに対する不安や負担の軽減を図る。

平成29年度はモデル的に2館で実施し、平成30年度に全てののびすくで実施する(のびすく若林については、平成30年10月を目途に開始予定)。

## (6) 児童館特別支援コーディネーターの配置

障害等により支援を必要とする児童(要支援児)への対応の充実を図るため、小学校や保育所の特別支援教育コーディネーターとの連絡調整、保護者対応に関する児童館の窓口的役割等を担う人材としてコーディネーターを段階的に養成し、児童館に配置する。

「児童館特別支援コーディネーター」は、特別支援教育コーディネーターが連絡協議会にも参加し、支援体制の構築や連携の強化、専門性の向上を図る。

## 5 発達障害児者支援の目指す方向性

発達障害児者が安心して地域で生活するため、切れ目ない支援を行い、関係機関が重なり合い支援する体制を整備する。

○就学、進学、卒業時等ライフステージが変わっても支援が引き継がれるために、関係機関間による情報共有や引継ぎを行う仕組みづくりを行う。

○関係機関の連携強化、ネットワーク構築、施策間の連携強化により、発達障害児者への協働支援の体制づくりを図る。

○発達障害に関わる専門職による施設支援や研修等を通じて、関係機関への人材養成を図る。